

複合病害抵抗性イネの栽培実験

(栽培実験期間：平成26年度)

	確認項目	確認結果
交雑防止措置について	○交雑防止措置について	(独)農業生物資源研究所(生物研)の本栽培実験は、(独)農業環境技術研究所(農環研)の隔離ほ場において隔離距離による交雑防止措置を採り、農環研内の同種栽培作物までの距離が30m以上、農環研外の最も近い農家水田との距離は500m以上であることを確認しました。
	○選定場所における風の影響について	栽培実験区画は、過去のデータから、イネの開花期における平均風速が3mを超えないことを確認しました。
	○開花前の低温により交雑の可能性が想定される場合の措置について	交雑の可能性が想定されるような低温にはならなかったことを確認しました。
	○モニタリング措置について	モニタリング用の指標作物の種子12,595粒を調査した結果、交雑が認められなかったことを確認しました。 畑ほ場のイネは開花前に鋤込んだため、花粉の飛散が無いことを確認しました。
混入・拡散防止措置について	○実験の種子、種苗の分別管理、野鳥等の食害による拡散防止について	実験の種子は密閉容器に入れ、他の種子と区分して管理していることを確認しました。 育苗は特定網室にて拡散防止措置を採っていること、隔離ほ場では田植え(種まき)前から収穫後(調査終了)まで防鳥網を設置し、野鳥等の食害による拡散を防止したことを確認しました。
	○栽培実験に用いた機械施設等の洗浄等について	栽培実験区画内で使用した機械等は、同区画内で付着物を払い落としした後、隔離ほ場内の洗い場で洗浄したこと、被服等は栽培実験区画近くで払い落としを行ったことを確認しました。
	○第1種使用規程承認作物の収穫物の管理等について	収穫物は密閉容器に入れ、他の収穫物と区分して実験室内で保管・管理していることを確認しました。
	○栽培実験終了後の第1種使用規程承認作物等の処理等について	残渣のワラ等は乾燥後に焼却し、切り株等及び地下部は越冬試験終了後に鋤込みにより不活化したことを確認しました。
	○第1種使用規程承認作物を栽培した区画での後作の収穫物の取り扱いについて	平成26年度は後作を行わず、次年度作として平成27年度に遺伝子組換えイネを栽培する計画であることを確認しました。
栽培実験に係る情報提供について	○計画書の公表について	計画書について、平成26年4月30日にプレスリリースにより公表したこと、同日に生物研のホームページに掲載されたことを確認しました。
	○説明会の開催等について	説明会を平成26年5月11日に開催し、29名の参加があったこと、見学会は4件(87名)行ったことを確認しました。
	○栽培実験の経過に関する情報提供について	説明会の開催を含め、本栽培実験の経過等について、13件の情報が生物研のホームページに掲載されたことを確認しました。
	○栽培実験を終了した後の情報提供について	栽培実験における収穫後の処理等について、平成27年2月27日に生物研のホームページに掲載されたこと、また、本栽培実験の結果について、平成27年5月14日に別途開催した説明会において説明したことを確認しました。
栽培実験に係る管理体制の整備について	○栽培実験に係る管理体制の整備について	栽培実験責任者、作業管理主任者及び情報提供主任者を指名して管理体制を整備していることを確認しました。

(参考) 独立行政法人農業生物資源研究所の栽培実験に係る情報提供について

「第1種使用規程承認組換え作物栽培実験指針」では、栽培実験の開始前から終了に至るまで適宜、情報提供することとしています。

複合病害抵抗性イネの平成26年度栽培実験に係る情報は、国立研究開発法人農業生物資源研究所（平成27年4月1日法人区分変更）ホームページ（以下のURL）にてご覧いただけます。

[http://www.nias.affrc.go.jp/gmo/gmotop\\_2014.html](http://www.nias.affrc.go.jp/gmo/gmotop_2014.html)

以下に、掲載されている情報の一部をご紹介します。



畑ほ場の複合病害抵抗性  
イネ(手前)。丈の高いイネ(奥)  
は非遺伝子組換え。  
(平成26年6月16日)



梓水田の複合病害抵抗性イネ  
(平成26年9月9日)



複合病害抵抗性イネの種子  
の搬入に使用した容器  
(平成26年8月29日)



播種に使用した道具や  
長靴を洗浄  
(平成26年8月29日)